

平成28年度 職員用アンケート集計結果（H29. 1実施）

資料4

	設 問	評価
1①	授業において、各単元の学習に入る前に、既習事項の確認をした。	3.5
1②	授業において、児童の発言や解答を予想し、必要な指導・助言を考えるようにした。	2.9
1③	練習問題などを通して、理解の不十分な児童を把握し、補習や次時の授業で補うように計画した。	3.2
1③	漢字・計算コンクールを通して、基礎学力が身についたかどうかの確認をし指導に生かした。	3.2
2①	本時の目標を、よりわかりやすく明確に提示することが工夫できた。	3.2
2②	4段階の授業スタイルを基本に、児童が主体的に活動できる授業展開を工夫することができた。	2.7
2③	児童が進んで考えを伝え合い、学び合うことができるようになってきた。	2.9
3①	道徳の授業の指導力を高めるために、研修を有効に活用したり、進んで研修に努めたりした。	2.7
3②	道徳の授業を体験活動(行事や教科)と関連づけて実施することができた。	2.8
3③	「わたしたちの道徳」やワークシート等を活用し、道徳的实践力を高めようとすることができた。	2.5
3⑤	道徳資料の整備や年間計画の見直しを必要に応じて進めることができた。	2.4
3⑥	教育相談等で、児童理解に努めることができた。	3.4
4①	児童会活動において、高学年が役割を果たすことができた。(企画運営委員会、代表委員会、委員会、縦割り班等)	3.7
4②③	児童は、運動会、作品展、志水祭、お楽しみ集会などの行事に進んで取り組めた。	3.8
4④	児童は、進んであいさつができた。	3.0
4①④	児童は、進んでリサイクル活動に取り組めた。	2.8
5①	地域や外部ボランティア等を積極的に活用できた。	3.0
5②	出前講座等の活用により、授業の質の向上が図れた。	2.9
5③	授業後、子どもたちに活動の振り返りをさせたり、自己評価をさせたりして出た意見を今後の授業づくりに生かした。	2.6
6①	重点努力目標を常に意識して取り組んでいる。	2.9
6②	学校評価等を生かして、学校や授業改善に取り組むことができた。(学級経営案での振り返り、授業や行事などのPDCA等)	2.9
7②	校務分掌について、仕事が特定の人に集中せず適切に分担されていた。	2.5
7②	校務分掌について、仕事が重複せず、系統づけられていた。	3.1
7③	校務分掌について、仕事の相關関係がうまくでき、互いに協力し合える体制になっていた。	3.2
7③	校務分掌について、誰がどの仕事の担当か、一目でわかるようになっていた。	3.0
8①	伝え合い、学び合う活動を充実させるための授業展開に心がけ、授業力向上に向けた授業研究に取り組んだ。	2.8
8②	教職員の力量向上のための現職研修は充実していた。	3.1
9	学校でけがをしたり、体調が悪くなったりしたときの対応が適切である。	3.4
10	学校は、非常災害時や不審者対策など緊急時の対応ができています。	3.0
11	たよりなどを通して積極的に学校の様子を知らせている。	3.4
12	保護者との連絡や意思疎通を積極的に行っている。	3.2
13	学校がきちんと整備されていて、教育の場としてふさわしい。	2.8
14	学校では児童や学年に応じた働くことの意義や目的などを学ぶ機会を設けている。	2.9
15	学校は特別に支援の必要な児童に応じた取組ができています。	2.9

